

2024年第3回前期定期県議会が9月19日～10月30日まで開かれました。

大沢あや子県議は9月26日の一般質問と10月25日の決算特別委員会総括質疑で、山本一太知事に県民の暮らしの実態や要求を届け、実現を迫りました。

ぐんまちゃん 県民生活 どちらが優先？ 23年度決算 総括質疑

県が推進している「ぐんまちゃんブランド化」。山本知事が就任してから今年度までの5年間で16億円を超える税金がつぎ込まれています。(下表)昨年度の決算額は約3億2300万円。アニメ(シーズン2)のテレビ放映や、海外プロモーションの強化などに使われました。

知事は、アニメ視聴数やSNSでのトレンド入りなどを自慢し、ぐんまちゃんの認知度や人気度を上げることで、県経済への波及や県民の幸福度向上、県民としての誇りや郷土愛の醸成を図るなどとしています。

ぐんまちゃん PR に毎年数億円

年度	予算額(円)	決算額(円)	主な事業
2020	1億5029万	1億3683万	アニメ動画製作(12話) 新曲制作
2021	3億2927万	2億9815万	アニメ動画製作(27話) テレビ放送(13回)
2022	4億3184万	4億2988万	アニメ動画製作(39話)
2023	3億3088万	3億2303万	海外プロモーション テレビ放送(13回)
2024	4億1449万	—	海外プロモーション 活動30周年記念事業

こうした予算・決算に、県民の立場で反対しているのは日本共産党だけ。県議会各党・各会派の姿勢も問われます。

県立高校 予算が足りない！ PTA や同窓会費で備品購入

ぐんまちゃんのブランド化に毎年多額の税金がつぎ込まれている一方、県立高校や県立特別支援学校では、本来公費で支出すべき備品等の一部が、PTAや同窓会費などの私費会計から支出されている実態があります。2023年度包括外部監査で、対象となった13校のうち10校でこうした実態が確認されました。

大沢県議は、教育環境整備に責任を持つ県教育委員会として、現場の実情に見合った予算を付けるべきだと指摘。平田郁美県教育長は、安易に保護者等に負担させるべきではないとの見解を示し、「学校運営に必要な予算を確保するよう努めるとともに、私費会計の取り扱い指針を見直す」と答弁しました。

私費会計での支出が指摘された一例



本来公費で負担すべき経費等を保護者からの徴収金で賄うことは趣旨に反するため(中略)県としても財源を確保するようにすべきである。 2023年度包括外部監査報告書より

まともな検証も分析もなし

大沢県議の質問で、毎年何億円もの税金をつぎ込みながら、まともな検証も分析もないことが明らかになりました。県民の幸福度を向上させるというのなら、県民生活を直接応援する取り組みこそ必要です。



大沢県議

経済効果や県民の幸福度向上をどう検証し、分析しているのか。

知事戦略部長

イベントの効果や来場者アンケート等の数値で検証。

山本知事

ぐんまちゃんが有名になることが地域経済活性化につながり、県民のプライドもあがっていく。「ぐんまちゃんブランド化」はこれからもすすめていく。

大沢県議

県民生活が深刻さを増している中で、検証も分析もあいまいな事業に何億円もかけるべきではない。県民を直接支援する事業にこそ予算を配分すべき。

特別教室へのエアコン設置急げ

県立高校へのエアコン設置は、普通教室で100%、体育館についても今年度から、順次設置していくための設計業務委託が始まりました。

一方で、音楽室や視聴覚室など特別教室への設置率は42.5%という実態です。県教委は「週10コマ以上使用する教室は、24年度で全国平均並みの57%をめざす」としています。

大沢県議は、週10コマに満たない教室でも、『夏場38度を超える中、扇風機だけで部活動を実施』、『エアコンがない調理実習室は、火を使うことで教室の気温がさらに上昇。衛生上も問題』という実態を示し、「命にかかわる問題。そこで学ぶ生徒がいる以上、環境整備は急ぐべきだ」と求めました。

保育士増

やれないはずはありません

国は4・5歳児の保育士配置基準を76年ぶりに改善しましたが、1歳児については、2025年度以降の「早期」に「改善を進める」と先送りしたままです。群馬県は国の基準(1歳児6人を保育士1人が担当)に上乗せして「5:1」にしていますが、現場からは「せめて4:1に」という切実な声が寄せられています。

1歳児を4:1にするために必要な県の予算は年間約4億円。ぐんまちゃんに毎年数億円も使える群馬県が、子どもたちの成長・発達を保障し、安心・安全な保育環境を整備するための予算を付けられないはずはありません。

